

女がいつまでも元気だということは  
「セクシー現役」でもありますね。



さて「セクシー」って、女の専門用語? 専売特許?



たとえば東京なら丸の内ビジネス街。スーツ姿の美しい女性に出会おうと、ついつい振り向いてしまう。たとえばいつもジーンズの女性が、たまにスーツを着込んで現れると、あらためて「いい女」と思う。この両者の共通項は、どうもその女性の中に隠されている「頭のシャープさ、クールさ」を、一挙に出現させてしまうのだ、と有名なコラムニストが書いていました。

「たぶん仕事のできる女性ほど、スーツがセクシーに見えるのでしょう」、とも。スーツがセクシーに似合う女性はいつでも誰かに「一目惚れ」されるに違いない、ともね。

それには仕事の種類はなんでも、やっぱり毎日のビジネスで自分を鍛え、「シャープさやクールさ」を磨くのが一番近道!

人の心をくすぐるために、自分はどんなスキルや道具を持っているのか?  
たまには振り返ってみましょう。「セクシー現役」って、やっぱり大切な女の勲章!

これはちょっと「驚き」。

開け放つと、戸が壁の中に消えて、すっきり美しい空間をつくる  
戸が袖壁内に納まる「引込み戸」(トステム)



半分開けた状態



全開した状態

引戸は空間を①完全に「仕切る」、②少しだけ開けて任意の幅だけ「つなぐ」、③全開して「開放する」といった、融通の利くドアです。また回転のための軌跡スペースが必要なく、体の位置を変えずに横に引くだけで開け閉めでき、バリアフリー性もバッチリ。しかし引き込んだ時の戸袋部分がデッドスペースになるという問題点がありましたが、袖壁の厚み部分に戸袋を納める構造にすることで難問を見事に解決。

袖壁内部に戸を引き込む戸袋を納めたことでデッドスペースがなくなり、室内外の袖壁両側に家具を設置することができます。

▼お問い合わせは

春建設 〒840-0861 佐賀市嘉瀬町中原 2015-11 Tel24-0749

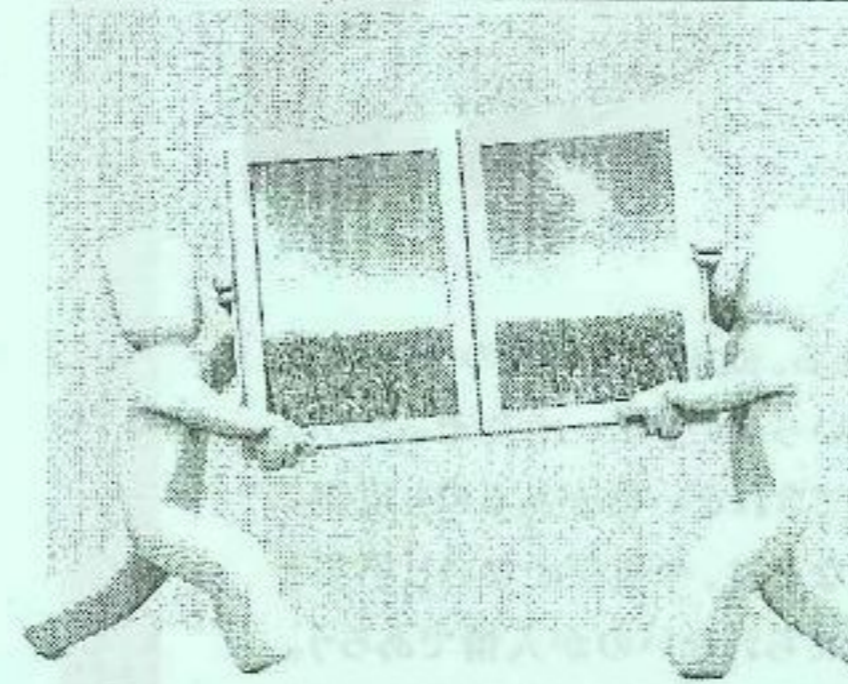
MONOWO TAISETUNI SIYOU SINBUN



その心は、大量生産、大量消費、大量破棄社会からのGood Bye!  
あり余っているから、すぐお金で買えるから、いつでもどこにでも捨てられるから。  
そんな社会と暮らしが、本当に望んだものなのか、快適なのか。  
これからはまず疑おう。それには、きちんとして、わかりやすく一流の物差しがいる。  
その物差しは、風土と季節、文化的、伝統的がいい。  
みんなに共通で、しかも変わることがないから、日本人なら毎日の生活の中で使いこなせるから。

# 大切にしよう新聞

2011.1



## 暮らしの歳時記 インテリアの室礼

四季折々の行事の心や季節の情緒をあらわすことのできるインテリアの室礼。  
昔から伝えられてきた暮らしを大切にしながら、これからの生活をより豊かに楽しんでいきたい。  
そんなちよこっとアレンジしたインテリアの室礼をご紹介します。

### 1月の歳時記 「おせち」の室礼

お正月の初めに家族でいただくおせち料理。「おせち」にはたくさんの縁起のいいわれやしきたりがあります。そのどれもが家族の幸福を願うものばかりです。現代のおせちはとても多彩になりましたが、昔からの知恵と心を上手に取り入れてみるとちょっと丁寧な気持ちでお正月を迎えられそうです。



まず、そもそもどうして重箱に詰めるのでしょうか。

- ・「福を重ねる」「めでたさが重なる」という意味があります。
- ・保存がしやすく、年賀に来るお客様にも振る舞えるようになど。

また、重箱の詰め方にもしきたりがあります。最近では1~3段が多くなっていますが、正式には五段重。1段目から4段目までは料理を入れます。5段目は年神様から授かった福を詰める場所として空っぽにしておきます。各段によって詰める内容が異なり、それぞれの料理に家族の幸福を願う気持ちが込められています。それでは次は主な料理のいわれをご紹介します。

■一の重【口取り・祝い肴】・・・一の重は1番上の段で、正月にふさわしい祝い肴を詰めます。

- ・田作り(ごまめ)  
イワシが畑の肥料だったことから「田作り」「五万米」と呼ばれ豊作祈願を込めて。
- ・数の子  
子宝に恵まれ、子孫繁栄を願って。
- ・黒豆  
まめに(勤勉に)働いて、丈夫で元気に(まめに)暮らせるように。
- ・紅白かまぼこ  
半円形は日の出(年神様)。紅白でめでたく、魔除けの紅と清浄の白を示す。
- ・伊達巻き  
「伊達」とは華やかな意味。巻き物が書物や掛軸に通じることから知識や文化の発達を願って。
- ・昆布巻 「喜ぶ」にかけて。
- ・栗きんとん  
栗は「勝ち栗」と呼ばれる縁起もの。黄金色で縁起がよく財産が貯まるように。



■二の重【焼物】・・・縁起のいい海の幸が中心です。

- ・鯛 「めでたい」にかけて。
- ・ぶり ぶりは出世魚なので立身出世を願って。
- ・海老 腰が曲がるまで長生きできるように。

■三の重【煮物】・・・山の幸を中心に、家族が仲良く結ばれるよう煮しめます。

- ・れんこん  
穴があいていることから、将来の見通しがきくように願って。
- ・ごぼう  
根を深く張り先祖が代々続くように。
- ・くわい  
大きな芽が出て「めでたい」、子孫がたくさんつので子孫繁栄。
- ・里芋 子芋がたくさんつくことから、子孫繁栄。



■与の重【酢の物・和えもの】・・・生野菜をバランスよく、日持ちのする酢の物で。

- ・紅白なます  
紅白でめでたく、祝いの水引にも通じる。大根のように根を張るように。

■五の重【徳えの重】・・・年神様から授かった福を詰める場所として空っぽにしておきます。

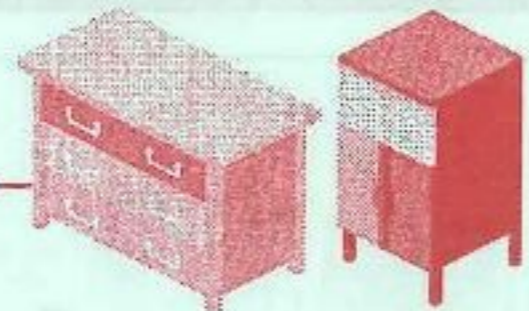
「おせち」を室礼したら、ぜひ「祝い箸」でいただきます。「祝い箸」は、大晦日に父さんが家族の名前をそれぞれの箸袋に記入し、箸を入れて神棚に供えておくのが習わしです。箸袋に水引を結んだり、手作りしても楽しそうですね。以上の基本をヒントに、どれも手軽なことなので、きることから取り入れてみてはいかがでしょうか。



# 大切なものを賢くしまう 収納術



「もの」がいっぱいの現在。住まいの収納は大きな関心事のひとつになっています。住まいにある様々な「もの」はその収納場所や収納方法に決まりはなく、それぞれのライフスタイルで自由にできるものです。豊かな発想と自由な表現で楽しい収納を考えましょう。



## 収納は捨てることからってほんと?

収納に関するノウハウ本を見ると「収納は捨てることから…」などと書いてある。確かに日本人の平均収入は増え、物はあふれ、さらにデフレ経済になった現代では、住まいの中は物がいっぱい。ちょっとやそっとの収納スペースでは、まったくもって足りない現状は確かである。しかしなかなか捨てきれない物があるのも現実。子ども達が小さなきの思い出のものや、自分自身の学生時代の記念のものなどは、今更使えないし不要といえど不要である。しかし、収納スペースに限りがあるからと言って、簡単に捨てられないのが人情であろう。さらに修理するより新しく買ったほうが安いものが多くなったことや、いずれ使うときがくるだろうと蓄えた衣類や小物も収納スペースを占領しているのも事実なのです。

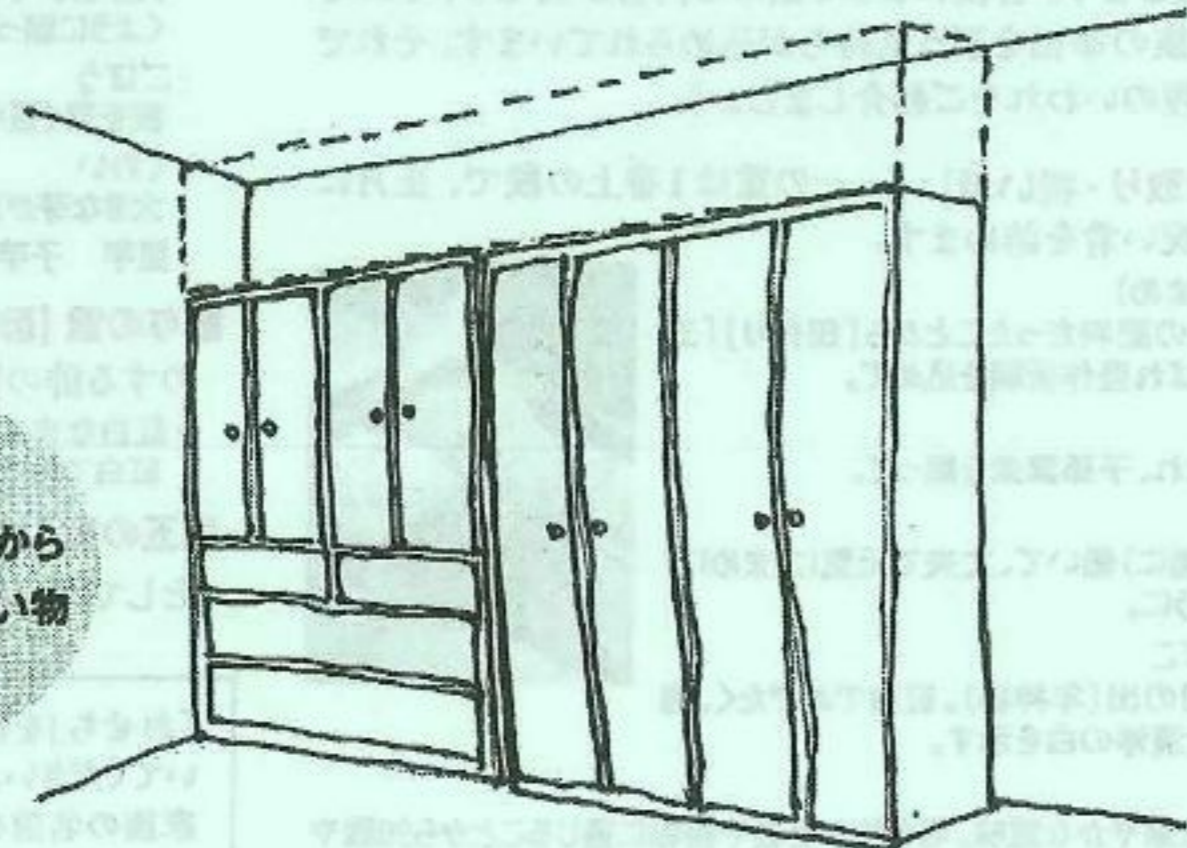
そこで、まず**住まいのものを分類**してみることをお勧めします。

決して捨てられない思い出の物。いずれ使うこともあるだろうと蓄えた物。ついつい安いからとあまり使わないけど買ってしまった物。壊れたけど高価だったために捨てられない物等々。一気に分類するのは大変なので、思いついたときや目に付いたときに分類して置いておけるスペースをまずは確保しましょう。

住まいを見渡すと結構**“デッドスペース”**はあるものです。例えば家具や家電の裏側の隙間。テーブルの裏側。家具と天井との空きなど、住まいを三次元に見渡すと案外使っていない空間は見つかります。そのデッドスペースに前述の分類によるエリアを確保し、一時的にストックしていきます。思い出以外の「物」は1年を通して使わないのであれば、それこそ捨てる物の候補になります。年末や衣替えの時期に思い切って処分を検討してみたいかがでしょうか。処分方法は「売る」「あげる」「捨てる」の3つです。

「捨てる」ことは最終手段として、まずは「売れる」かどうか、近所のリサイクルショップへいざ出発!

- ? 思い出の物
- ? 蓄えた物
- ? 使わないのに買ってしまった物
- ? 高価だったから捨てられない物



# こもだるサンの 子育て日記



はは(こもだる) ちち(だんな) みゆう(娘)  
偉らく母 偉らく父 平成10年生まれ  
こもだる(通称)とは薫(わら)の狐(こも)でくるんだ酒樽のこと。お酒を愛しすぎて自分のあだ名にしてしまいました。

## 強くたくましく

超未熟児 835g<sup>4</sup>で誕生した美優。

今日は定期検診の日です。場所は3ヶ月半、入院していた小児医療センターです。

超~小さいこと、毛がないことを除いては100点満点の花丸をもらえました。

あまりのゲ~ハ~っぷりに先生も苦笑いしながら「大丈夫ですよ...そのうち生えてきますからね...。」と祈るように頭をナデナデ。

まあひと安心して会計を待っていました。美優はキッズコーナーでいっちょまえに2倍も3倍も大きな子ども達に混ざって遊んでいました。

わんぱく小僧が約1名いて危ないな~と見ていた矢先その小僧がなぜか急に美優に馬乗りになったのです!

美優はこれまたなぜか大喜びなのですが(トホホ)



さすがに危ないので救出しなければと思ったとたん!

すごい勢いで何かが飛んで来て小僧が吹っ飛びました!

小僧のかあちゃんパンチです。

ほが~ん

母は強し!

特に男の子の母はたくましいですね。



家が完成するまでには、さまざまな専門の職人が関わります。その職種はおよそ二十。面白いのは棟梁の下に、突如現れ、自分の持ち場が終わると、疾風のように去っていくありさま。家づくりを知るには多々あれど、職人の役割を知れば、それは生きた勉強。

## 「和室」から「タタミ・コーナー」に変身して、おしゃねに復活している「畳」。

畳屋は畳を作るだけでなく、作った畳を部屋に取り付ける職人もあります。

その畳、確実に需要は減っていますが、近年、建築家が「へりなし畳」を好むようになり、「へりなし」の需要は年々増加。

この「へりなし畳」の「へりなし」は「へり」でごまかせなく、実は仕上げが難しいそうで、若い職人には任せて置けない作業らしいのです。

畳は、高温多湿という日本の気候・風土に適した敷物であるといわれてきましたが、あのゴロンとなった時の感触は、大人ばかりか子どもたちにも人気のようで、コミュニケーションを育む「タタミ・コーナー」として住まいの中に復活してきています。



和室を替え畳の間の

永六輔「職人」より

職人がデパートなんかで、実演と称して見世物にされているのを見ると、情けなくなっちゃうね。腕は客に見せなかったって、いいもんだよね?